

The TOKUYA TIMES

とくや
タイムズ

自民党
豊橋市議団
個人版

New

<http://itotokuya.com/>

伊藤 とくや

Autumn, 2021, vol.59

『2023年 NHK 大河ドラマ「どうする家康」を活かす』 『東京一極集中から流出への人口動向を活かす』を問う！

第59号 ごあいさつ

令和3年度9月議会の一般質問は、

- 1 岡崎市、浜松市、静岡市がドラマに合わせたシティプロモーションに積極的な動きを見せる『2023年 NHK 大河ドラマ「どうする家康」を活かす本市の取り組みについて』
- 2 コロナ禍の一年、政策の力では決して止めることができなかつた人口の東京一極集中が、コロナ禍にさらされた一年間であつてなく流出に転じた。この「東京から地方へ」という一世紀に一度あるか、ないかの、大転換期を活かす『東京一極集中から流出への人口動向の大転換を活かした本市の取り組みについて』暮すところ、働くところとして、選ばれるまち豊橋はどうあるべきなのか、将に喫緊の課題を議論しました。

また、9月議会は令和2年度決算委員会が開催され、次年度に反映される様々な議論を交わしました。



2023年 NHK 大河ドラマ「どうする家康」を活かす本市の取り組みについて 【質問の意図】

- 👉 岡崎市は、「どうする家康」を、全市を挙げて取り組むために、経済振興部に「どうする家康」活用推進室を立ち上げた。
- 👉 浜松市は、「どうする家康」大河ドラマ館整備検討を示した。
- 👉 静岡市も、大河ドラマ館の誘致を検討しており、葵区に建設中の歴史文化施設への誘客等の考えを示している。

プロモーション効果を狙った周辺市の動きについて 【企画部長】

- 本市にとっても歴史資源を活用してプロモーションができるチャンスです。
- 岡崎市、浜松市を中心に東三河、西三河の関係市や観光協会が加わった会議に本市も参加し、意見交換を実施している。
- 尾張や浜松地域と連携し、スケールメリットを活かしたプロモーションを三河地域一体で行いたい。

プロモーション効果を狙った本市の動きについて 【企画部長】

- 吉田城は、若き家康公が攻略したことで三河の制覇を成し遂げたのち、徳川四天王の一人として知られる酒井忠次が城主となり周辺地域攻略の拠点としたことや、吉田城の遺構には、姫路城を築いた池田輝政の石垣が見られるなど、大変貴重なものとなっている。
- この様な多くの魅力を市内外に発信することは、本市の魅力のさらなる向上に繋がる。
- 鬼祭り知られる安久美神戸神社があつた豊橋公園には少年時代の家康が鬼祭りを見た時に腰かけたとされる「腰掛松」の碑があり、こうした隠れた歴史的エピソードを深掘りするなど、本市が持つ独自の歴史的コンテンツを広くPRしていきたい。

🌸 再質問

- 👉 プロモーションを三河地域一体で行うことは、極めて重要。
- 👉 歴史で登場する家康は「三河の松平、三河の徳川」!!
- 👉 三遠南信もまた三河であることなど、豊橋市は東三河の豊橋から、三河の豊橋、三河東の豊橋、という思考転換が求められる。

- 👉 池田輝政は、吉田城拡張、吉田橋架橋、吉田城下町の整備を行い、秀吉の仲介で家康の娘「督姫」をめとり、姫路藩主となり、現在の姫路城を残した。
- 👉 家康が長篠の戦の前に必勝祈願した加茂神社など、縁は豊富。

本市の果たすべきシティプロモーションとしてのミッション（目的、使命、存在意義、役割）について

【企画部長】

- ドラマの歴史的背景を活用してシティプロモーションにつなげることです。
- 歴史資源をPRし、交流人口、関係人口の拡大を目指します。
- 市民へも、家康公や戦国武将関連の歴史資源など、知られていなかった魅力をPRし、まちへの誇りや愛着を高めます。
- 本市の様々な歴史的な魅力を発信し、ブランド力の向上につなげます。

🌸 再質問

- 👉 NHK 大河ドラマにおける結びは、物語の主人公や舞台にまつわる情景です。
- 本市の家康にまつわる史跡、景色、書状や資料（羽田八幡宮文庫・豊橋市図書館所蔵）など、NHKへ積極的にコンテンツを情報提供すべきです。

この事業を、先に名乗りを上げた岡崎市、浜松市や、広く三遠南信との協調・連携や、首都圏活動センターとの緊密な連携について

【企画部長】

- 岡崎市、浜松市とは、既に意見交換を実施しており、三遠南信地域についても、連携を図っていくと考えている。
- 首都圏活動センターは、首都圏におけるシティプロモーションの拠点と認識しており、様々なチャネルを活かしたプロモーション活動に取り組む。

🌸 まとめ

- 👉 岡崎市、浜松市とは、より強い絆で幅広く連携を継続することを期待します。
- 静岡市とも連携すべきです。
- 👉 三遠南信の連携は欠かせない。例えば新城市だが、日本三大決戦場の一つ長篠・設楽原の戦いの古戦場、日本の100名城長篠城がある。
- 👉 「家康の父、広忠公が、良い世継ぎを得たいと思われ、於大(おだい)の方とともに鳳来寺に参籠(さんろう)し、効あつて家康が授かつた」鳳来山東照宮がある。
- 👉 三遠南信の家康コンテンツのNHK提供も、東京事務所を活かして尽力されたい。

コロナ禍の一年、東京一極集中から流出する人口動向の大転換を活かした本市の取り組みについて

【質問の意図】

- 「政策の方では決して止めることができなかった人口の東京一極集中」が、コロナ禍にさらされた一年間であっけなく流出に転じた。
- 企業における在宅勤務やビジネスにおけるリモートによるコミュニケーションは相当程度普及している。
- ウィズコロナに対応した就業ルールや、環境整備実施済みの企業もあり、住宅コストが高い東京への転居が完全には戻らない可能性がある。
- 「東京から地方へ」という動きに対し、地方の時代を切り拓くためにも、一世紀に一度あるか、ないかの、大転換期を活かさねばならない。
- 世界的なコロナ危機で「未来の日本」が危ぶまれる今こそ、この地域に秘められた力を最大限に引き出し、地方から日本の再生を牽引せねばならない。
- 産業も暮らしもその地域の特性に合わせて考えられる時代へと急速に変わる時代は、**将に今**です。

(1) アフターコロナを見据えた、移住施策の考え方について 【企画部長】

- リモートワークなどの働き方改革により、地方に拠点を置きながら仕事ができる環境整備が進んでいる。
- 移住先として選ばれるのは、比較的都市近郊の、豊かな自然と温暖な気候に恵まれ、スポーツやアウトドアアクティビティといった趣味が楽しめるなど、多様な暮らし方が実現できるところである。
- 本市は首都圏近郊では無いが、医療や教育、子育て環境などの生活基盤が充実しているのに加え、東京や大阪といった大都市圏への交通アクセスの良さにより、リモートワークなど新たな働き方を実践する移住者にも対応することができ、移住先として最適な都市の一つであると考えられる。
- アフターコロナにおいて、豊橋市への移住を促進するためには、本市に住みたい、住み続けたいと思われるようなまちづくりを着実に進めるのはもちろんのこと、**新たな暮らし方、働き方にも対応できる施策を進めることが重要**であると考えている。

(2) 暮らしの魅力のPRへの考え方について 【企画部長】

- 暮らしの魅力のPRについては、各種支援制度やメリットなどの基本情報を示すのみでなく、豊橋で実際に暮らす場合のイメージができるよう、わかりやすい方法が必要と考えている。
- 移住者の生の声や、豊橋に暮らしている方の普段の生活など、動画による情報発信が幅広い世代に訴求する有効な方法のひとつと考えている。

暮らしの魅力のPRの具体的な取り組みについて

- 豊かな住み方を伝える動画「豊住(ほうじゅう)」を制作。
- 豊橋で暮らす移住者から見たプロモーション動画「トヨハシサラダ」を制作、第一弾は東京から移住したまちなか図書館の館長夫妻です。

(3) 移住者を呼び込むために必要な新たな働き方と働く場についての考え方とPRについて 【産業部長】

- 働き方や働く場の多様性は、移住者を呼び込むために重要な要素。
- 本市にも副業や兼業、フレックスタイム、テレワークなど形態がある。
- 働く場は、市内に商工業合せて約 15,000 の事業所があるほか、有数の農業地域でもあり、この様な場所で働くことも可能である。
- 近年はスタートアップ(起業)の育成にも力を入れている。
- 市内で働く方の生の声を動画等も活用しながら上手にPRします。

新たな働き方と、働く場を充実させるための今後の施策展開について

- 働き方は、ライフスタイルに合わせて働き方を選択できるイメージを高めます。
- 働く場は、既存の働く場と権利を守ると共に、知識・技術の導入、規制緩和、他分野との融合を進め、イノベーションを創出する施策を展開します。
- イノベーションの創出は、言うはやすしですが、高い壁です。
- 産業に不可欠な人材の確保と起業の観点から、CCRC[Continuing Care Retirement Community]「生涯活躍のまち」も視野に入れるべき。

今後担い手不足が大きな課題である農業に於いて、地方創生の観点から流入人口を促す施策展開について 【産業部長】

- 新規就農者の減少が続く中、国においては担い手確保の方策として、農業と他の仕事を組み合わせた「半農半X」という新たな働き方の導入が、検討されている。
- 本市もこうした国の動きを踏まえ、様々な能力や経験を有する方が、豊橋に関心を持って来ていただけるよう検討を進めたいと考えている。
- 特に本市では、これまでも産学官が連携しIT食農産業の推進、地域の植物工場化、6次産業化支援などの新たな農業に取り組んできた。
- U・I・Jターンを希望するあらゆる地域の人が学べる体制や環境づくりに努め、先端技術の更なる推進など、時代のニーズに沿った取組を進めたい。
- 農業に携わる働き方を前提とした土地の取得資格要件など、新規就農者にとっては高いハードルとなっている要件もあるが、今後は規制緩和を含め、意欲のある方々が就農しやすい環境整備に努めたいと考えている。

- 浅井市長の所信表明では、『豊橋』をどこよりも元気なまち、ひとさわ輝くまちにし人口減少時代に立ち向かう「農業を学ぶなら豊橋で」「農業をやるなら豊橋で」食と農を中心とした関連産業が発展する環境づくり専門性の異なる3大学と連携、新たな取り組みに挑戦・・・とある。
- 9月は、サマーレビューを経て、次年度予算の編成に着手する時節だが、残念なことに、未だ、公約や所信表明は政策として見当たりません。

浅井市長の公約に照らし『コロナ禍の一年、東京一極集中から流出する人口動向の大転換を活かした本市の取り組みについて』について 【企画部長】

- コロナ禍に起因した価値観の大きな変化が進みつつある中、本市が進めるべきまちづくりは、未来を見据えた取り組みが大切です。
- 人づくりはまちづくりの土台であり、人を育て、その人がまちを形作り、さらにイノベーションが生まれることで、まちが活性化していきます。
- 子育てがしやすい「人づくりNo.1のまち」や産業振興につながる「食と農のまち」を目指すプロジェクトを現在、部局横断的に進めています。
- アフターコロナを見据えて本市の魅力は今以上に高めていくことで、市内の方々に「豊橋は活気のあるまち。ぜひ住んでみたい、住み続けたい。」そう思ってもらえる、選ばれるまちづくりを進めます。

②まとめ

- 「豊橋を活気のある、住みたい、住み続けたい、選ばれるまちにしたい」とのことですが、市長公約は、市民との約束、賛否は議会での議決です。

東三河広域連合議会では、「東三河DMOが果たすウィズコロナ、アフターコロナにおける東三河観光再興について」を骨子に、東三河DMOの想定されるミッション（目的、使命、存在意義、役割）についてなど、議論を交わしました。

日本版DMOとは、地域の「稼ぐ力」を引き出すとともに地域への誇りと愛着を醸成する「観光地経営」の視点に立った観光地域づくりの舵取り役として、多様な関係者と協同しながら、明確なコンセプトに基づいた観光地域づくりを実現する戦略を策定するとともに、戦略を着実に実施するための調整機能を備えた法人です。



あとがき 🍀 12月議会でのテーマは教育です。「激動が予測されるこれからの10年を見通した豊橋市の教育について」を質問骨子とし、第2次教育振興基本計画に基づき、本年度より新たな学校文化の形成へ舵を切りましたが、計画の初年度から、新型コロナウイルス感染禍とアフターコロナ、カーボンニュートラル、SDG's、急速なデジタル化といった、計画前には将来展望で読み取れなかった、新たな社会構造の大きな変化を正面から受け止め、効果的で効率的な教育のありかたを形成していかなければならないことについて、議論を重ねます。

市政報告会のお知らせ

緊急事態宣言が解除された後に開催致す所存です。宜しく願い申し上げます！

発行

伊藤とくや事務所
豊橋市松葉町 3-70
☎090-3855-9696
FAX :
0532-53-4557
bbito@me.com